

第1回 栃木県道路施策検討有識者懇談会

議事概要

- 1 日時
令和5(2023)年3月22日(水) 10:00~11:00
- 2 場所
栃木県庁 昭和館 多目的室4
- 3 出席者
【委員】
五艘みどり委員、小林博文委員、末武義崇委員、清木隆文委員、根本敏則委員、三田妃路佳委員
【アドバイザー】
国土交通省関東地方整備局宇都宮国道事務所 吉田幸男所長
【県】
坂井康一県土整備部長、交通政策課長、道路整備課長、道路保全課長、都市整備課長
- 4 座長選出
委員の互選により根本委員が座長に選出された。
また、座長の指名により、末武委員が座長代理に指名された。
- 5 根本座長あいさつ
 - ・広域道路ネットワークの実現に向けた施策については、その上位計画として国土形成計画がある。
 - ・国土形成計画は10年毎に改定されており、今年の夏に改定を予定している。計画内容は固まってきており、徐々に内容が分かってくるが、重要な事項として、全国的に人口が減少する中で、交通ネットワークを充実させ、人口10万人程度の「地域生活圏」を形成させようという考え方が明らかになってきた。10万人のまとまりがあれば大学や専門学校も維持できるのではないかとこの考え方である。
 - ・栃木県の場合は、宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、小山市、那須塩原市が人口10万人を超えている。
 - ・ここでいう「地域生活圏」とは、市域とは関係なく、市域を越えて交通で集まることが出来ればそれを「地域生活圏」としているが、交通ネットワークを充実させてというのが前提であり、この交通ネットワークには新幹線を含むが、やはり重要な交通手段としては高速道路が挙げられる。
 - ・そういった意味でも、この懇談会は時宜を得たもので、ここでの検討が栃木県の将来の都市構造に大きな影響を持つのではないかと期待している。
- 6 議事
 - ・事務局から資料に基づき栃木県における道路施策に関する現状と課題について説明し、その後、意見交換を行った。
 - ・今後の進め方について、確認された。

7 委員意見要旨

○五艘委員

- ・（仮称）つくば・八溝縦貫・白河道路の区間は、公共交通および道路ネットワークが脆弱な区間であると感じる。那珂川町を対象とした研究を行っている学生や他大学からもアクセスの悪さについての声を聞く。
- ・また、栃木県の中で有名な観光地はいくつもあるが、那珂川町のほかにも、塩谷や矢板といった地域にも埋もれた地域資源がある。
- ・今後、事業の必要性を問われる場面もあると思うが、人口減少が著しい地域が消滅につながる可能性もあることを念頭に置きながら計画を進めていただきたい。

○小林委員

- ・日光宇都宮道路は非常に便利で、料金も安いと感じている。需要としては、日光ICで降りの方が大半であると思うので、日光までの区間の料金のあり方については現行料金の見直しの可能性も含めて検討しても良いのではないかと感じている。
- ・有料道路については、これまで、受益者負担を原則とした考え方にに基づき道路行政が進められてきたが、その一方で、道路の老朽化の現状を踏まえると、メンテナンスへの充て当費用の増加等により、受益者負担のみでは賄いきれないのではないかと感じる。
- ・これからの道路行政は、受益者負担に加え、移住・定住の促進や、産業の集約などのまちづくりをセットで考えていかないと成り立たないと思う。
- ・こうした中で、既存の有料道路のあり方や、新たな広域道路の整備を進める上で、道路行政とまちづくりをセットで考えていくことで議論が深まっていくのではないかと考える。

○末武委員

- ・栃木県の道路の全体計画については、栃木県の各地域と宇都宮市を60分以内で結ぶ「県土60分構想」が、着実に実現されていることを実感した。
- ・日光宇都宮道路のサービス水準のあり方と道路施設等のリニューアルに要する経費の確保手法については、以前委員として参加した「日光宇都宮道路に関する有識者会議」における議論の中で、道路本体の構造物の維持管理のみならず、電気系統施設の補助電源バッテリーが耐用年数を超えても更新できない状況にあると伺ったことがある。その時点では補助電源を稼働させる事態は発生しなかったとのことであったが、万が一補助電源の使用に迫られた場合は、道路施設の範囲にとどまらず、周辺住民への電気供給にも影響があることから、古い施設を使い続けることの不安材料となるということであった。
- ・限られた予算の中で、優先順位をつけながら予算配分を行った場合、現状で何らかの不具合が発生していない施設の優先順位が下がることは理解でき、それでもいずれ解決するものと認識していたが、現状では道路付属物の更新についても必要経費の確保が決まっていないとのことであり、改めて様々なところに問題が残っていることを認識した。

○清木委員

- ・宇都宮鹿沼道路の耐震補強がまだ終わっていないということであるが、平常時はもちろん、緊急時にもしっかりと道路が機能するようにサービス水準を高める必要がある。
- ・日光宇都宮道路も観光の中心に繋がる道路なので、平常時だけでなく、緊急時にも十分なサービスが提供出来る様に整備を継続する必要がある。
- ・（仮称）つくば・八溝縦貫・白河道路の計画は、地元住民に対してどこまで示されて

いるのか確認したい。地域の住民が計画を知った上で住み続けたいと思うか、若しくは他地域への移住等の意向を踏まえた計画となるのかも重要な視点と考える。

- ・（仮称）つくば・八溝縦貫・白河道路は地質的に複雑なことが想定されるので、どのような構造の事業にするか検討が必要になる。こうした観点からも、事業進捗に影響があるので今後の計画について検討を深めていければよい。

○三田委員

- ・道路の利用料金で道路維持費用を賄っていくのは困難であると感じている。これからテクノロジーの進歩によるIT技術がますます発展し、高齢化も進行する中で、補助機能付きの車両も普及していくものと考ええる。
- ・今後の道路のあり方として、単に維持管理といった面だけではなく、先進技術にも対応していかなければならない。将来的にはテクノロジーの進歩を見据えた道路行政を進めていく中で、県民のみならず観光客等を含めて広く料金徴収出来るような仕組みを考えていかなければならない。
- ・（仮称）つくば・八溝縦貫・白河道路については、急に計画を進めると反発や理解が得られないといった状況に陥ることがあり得るので、準備段階から広く情報公開し、理解を得ていくことが必要ではないか。

○吉田アドバイザー

- ・栃木県は非常に住みやすく、非常に豊かな県という感想を持っている。県土60分構想が実現してきたことで、自動車があればどこにでもいける状況にあることから、栃木県内に留まって生活することが可能である。東京圏にも近く、新幹線であれば1時間で東京までアクセスできる環境が整っており、地理的優位性を生かして産業誘致や道路整備等を進めてきたのだと思う。
- ・その成果もあって、県民一人あたりの所得は全国トップクラスを誇っている。経済的にも自立した県であることから、これからの30年後を見据えてどういった立ち位置で成長していくのかは、本懇談会の意見を参考にしながら構想を練っていくことになると思うので、各委員の様々な意見を参考にしてほしい。

○事務局

- ・構想路線である（仮称）つくば・八溝縦貫・白河道路と（仮称）北関東北部横断道路の公表状況については、現状では広域道路交通計画として県や国のホームページで公表しているところであり、地域住民をはじめ県民への直接の説明は行っていない。長大な構想路線なので、どのように事業を進めていくか、公表や合意形成の手法等についても、本会の中で意見をいただきながら検討して参りたい。